



東西大学校語学研修の記録

2017/03/22

東西大学校語学研修を実施する意義

■目的

青少年の健全育成に関わる国際交流プログラムを実施し、お互いの国を知り、青少年が同じ視線で物事を理解していくことが求められています。このプログラムでは、語学を学ぶだけではなく韓国の伝統と文化を通して知識を得て行く事を目的にしています。東西大学校の学生と本校の学生が互いの意見を交換し、相互信頼関係を築くことも最大の目的でもあります。

■プログラム参加学生の達成目標

コミュニケーション運用能力を計ることに重点を置いたプログラムであり成果は、学生がどれだけ多く他の人たちとコミュニケーションを計った度合いで達成目標を計ります。日本での学修環境下ではそれほど多く韓国語と触れ合うことがない事から、このプログラムでは、より多くの人とコミュニケーションを計り、外に向かう力と積極的態度を育成したいと思っています。

研修後は成果発表会などを行い、資料をして残すなど数字化は出来ないが目的が達成できるように計ることが出来ました。授業の体制は、本校の学生9名であり少人数の中で話す、聞く事を中止に30時間の授業が行われました。授業以外では、韓国伝統文化体験として伝統衣装体験、慶州旅行、キムチ作りなどが行われました。

東西大学校の日本語学科の学生と共に、買い物などに出かけ、親密度を深める事が十分に出来た。参加学生は、高い満足度を持って帰国する事が出来た。小さな目標はあったが、日韓の友情の輪を少しでも広げる事に貢献出来たのではないかと思われます。

内向化が進む大学の中で

日本の学生に「内向化」が進み、その結果「海外に出ない」「留学は面倒」「わざわざ苦労するのは」という学生が増加傾向にあることが報告されている。確かに、大正大学においても同様の動きや傾向がここ数年見受けられる。特に男子学生の内向化は顕著になっているようと思われる。この主な原因は、他大学でも同じであろうが、大学生活の中で時間的な余裕と金銭的な余裕が持てない学生と言語での障壁が、その原因となっているよう推察される。しかし、実際に、現地で見ること、聞くこと、触ることで本物を知ることになります。その結果として、このプログラムには、歴史、伝統、芸術、絵画、音楽が欧州の香りがあり、参加する者の満足度は高くなっていると思う。

本校が実施している「東西大学校語学研修」では、東西の学生と交流しながら学んでいくことを大事にしている。

この号の内容

語学研修を終えて	1
各学生レポート	2
研修資料	7
付録	4

重要な日付

02/06	成田空港に集合でした
02/06	釜山
02/19	思い出の写真（帰国）



初めに

私は、今回2月6日から19日の14日間韓国の大東校への語学研修に参加した。韓国に興味があり、大学に入学してしばらく経った際に2週間の韓国への研修プログラムがあることを知った。そして、大学に入學してから韓国語を勉強し始めて、約8か月が経とうとしていた。また、普通の旅行とは違いいろいろな貴重な体験をすることができるのではないかと考えたことも、参加する決め手の一つでもあった。韓国は初めてであったため、不安が多くあった。しかし、実際に行きとても充実した14日間であった。

日本と韓国

日本と韓国の違いについて、述べていく。まず、私が一番に驚いたことは韓国の交通事情についてである。自動車は右側通行であることは知っていた。私が驚いたことはそこではない。日本では、歩行者優先であるが韓国では自動車優先であるということであった。歩行者が渡ろうとしても止まらないか、クラクションを鳴らしてくるのである。私は、それで今回何回かひかれそうになってしまった。また、車は、赤信号でも歩行者も自動車もいなければ、普通にわたっているということであった。日本では自動車が赤信号で渡ることはまずない。（歩行者はあるが…）日本人の私には信じられない光景であった。

次に、地下鉄について述べていく。日本の場合、地下鉄や電車には時刻表があり、大体はその時間通りに来る。しかし、韓国では始発と終電の時間のみしか表示されていない。つまり、時刻表がないのである。とりあえず、来た電車に乗っていく、ということになる。また、今回は釜山にしかいなかったため、他の都市がどのような感じなのかはわからないが、地下鉄の出入り口が日本より安全性が高いということである。線路への落下防止のためなのか、上から下までガラスでふさがれていて、完全に線路に落ちないようになっていた。電車の中では、優先席は完全に、高齢者しか座れないようになっていた。日本では、空いていれば若者でも座るが韓国では、儒教の精神であるのか優先席は空いていても若者は決して座ることがなかった。そして、電車の中で日本語を話していると若者は気にすることがない人が多かったが、高齢者にはすごく見られていた。中にはにらみつけるような人もいたことも覚えている。その時、私は歴史的な問題がまだ残っているのだなと感じた。さらには、携帯の着信音や携帯で話している人が多かった。日本がいかに静かなのかが分かった。



次に私が驚いたのは人ととの距離感である。どこに行っても、女性同士でも男性同士でも、手をつないだり、腕を組んだりしている。日本ではあまり見られないことである。また、恋人同士はすごく距離感が近い。どこに行っても、カップルは日本では考えられないほどの距離感の近さである。私がそのカップルの距離感で一番驚いたことは、釜山にある海雲台に行った際、カップルが一つの携帯で音楽を流して、もう一つの携帯で仲良くドラマチック風にビデオを撮っていた。日本では考えられないため、カルチャーショックを受けたのを覚えている。私は、元々友達同士であまり接触することを好む方ではなかった。しかし、韓国へ行き、友達同士で腕などを組んで歩いてみた。身体で友情を表現しているような気がしてすごく良いなと思った。

人の温かさも感じた。ある日、私がスーパーで買い物をしていた際、一人の女性が「このノリは、キンパ用のノリですか？」と聞いてきた。私はもちろん日本人のため「ごめんなさい、私日本人なのでわからないんです」と答えた。その際に「ごめんなさい、留学生？頑張ってね」と外国人である私に嫌な顔1つもせずにむしろ笑顔で応援してくれた。このような光景は日本では普段考えられない。日本にはないことを体験することができて、とてもうれしかった。

最後に

今回、研修に参加し本当に日本との違いを大きく感じることができた。日本では当たり前と思っていたことが韓国では違い、日本人の私が信じられないと思っていたことが韓国では当たり前だったりすること、また、日本が見習うべきことが多くあった。この報告書では書ききれないことがたくさんある。これは、きっと旅行では感じることはできないだろうと感じた。今回、東西大学校出来た友達はほとんどの人が日本語をできた。その人たちとは日本語で会話をした。中にはできない人もいる。その人たちには私のできる範囲の韓国語で話してみたが、その時、私の力は本当に実力不足だと感じた。思うことがきちんと見えなかつたからである。自分には何が足りないのかわかつてはいたが、想像以上にできなかつた。もっとできるようになれば、韓国の人たちの温かさを感じることができるのではないかと感じた。

これから、もっと勉強をして次回は1年間留学したいと考えている。



今回、2月6日から2月19日までの14日間、韓国の釜山にある東西大学校で語学研修に参加した。私は、韓国が好きで大正大学で韓国語の授業を受けていたが、韓国に行ったことはなく、実際にやって韓国の雰囲気を感じたり、韓国の文化を体験してみたいと思い、この研修に参加した。

韓国は、日本と距離が近いことや同じアジアの国であることから、文化や日常生活に大きく違うことはあまりないのではないか、と思っていたが初めて韓国に行ってみて、想像していたよりも驚くことが多く、日本の文化や生活とは異なることを実感した。その違いとして、まずはトイレについて話していく。日本のトイレはトイレットペーパーを水に流すことが普通であるが、韓国ではトイレットペーパーを流すことではなく、ごみ箱に紙を捨てることが普通であった。ごみ箱に捨てるよう気を付けていても、気を抜いてしまうと流してしまって、慣れることは難しかった。

次に、日本との違いに気付いたことは車優先であることだ。日本は信号がない横断歩道でも歩行者が優先であるが、韓国は車が優先に走っていた。横断歩道の信号が青でも、歩行者がいなければ車は走っていたことに驚いた。また、韓国の運転は日本に比べて運転が荒いと感じた。休日に買い物に行くために市内バスを利用したところ、吊革につかまつっていても意味がないほど揺れが大きく、バスの速度も速く、乗っていて怖かった。しかし、バスの乗り継ぎが便利で、利用している人も非常に多かった。そして繁華街の車道では、横断歩道がほとんどなく、地下道が整備されていて歩行者は地下道を通って反対側の道に行くことが普通であった。これも車優先の文化のためなのだろうかと感じた。

食文化も日本と大きく異なっていた。日本は取り皿に自分の分を取り分けて食べることが普通であるが、韓国では取り分けることはせず、一つのものをみんなでつついで食べるスタイルであった。また、おかずの種類も多く、テーブルいっぱいにご飯が並んでいて、すべて食べることは難しかった。日本でも有名な韓国のかき氷、ソルビンも1つがとても大きくて、みんなで分け合って食べていた。日本では、みんなで分けることもあるが一人一個注文するのが普通だと思っていたので、不思議な感じがした。

もう一つ、韓国で衝撃を受けたことはサービス精神が多いことである。コンビニやスーパー、化粧品店などで買い物をしていると必ずと言っていいほど、「1+1」や「1+2」という表記が目に入る。これは、対象の商品を一つ買うと一つ分の値段でもう一つ商品がついてくるというものであった。とてもお得な制度で、特に女性には化粧品が「1+1」制度だととても嬉しいものだと思った。化粧品店では、ある金額以上買うとおまけが付いてくるサービスもしていて、化粧水やハンドクリームの試供品、メイク用ブラシなどがもらえた。韓国のアイドルとコラボしているお店では、そのアイドルのフィギュアやグッズがおまけでついてくるので、ファンにも嬉しいサービスだった。日本では、「1+1」制度はあまり見ることはないので、物珍し

い感じがした。おそらく、日本は特売日など、特別な日だけそういうサービスがあると思うが、韓国は日にちによらず毎日行っていた。

一方で、店員の接客態度にも驚くことがあった。日本のアルバイトでは、笑顔で接客をするように指導され、勤務中のスマートフォンや携帯電話の使用は禁止のところが多いと思う。しかし、韓国の店員やアルバイトは飲食店やアパレルに関わらず、レジを打ちながらスマートフォンを弄っていたり、電話しながら接客したりしていた。日本では、なかなか見ない光景である。けれど、大学近くのコンビニのおばさんは優しく話しかけてくれていろんな話をしてくれてとてもいい人だった。ソミヨンに買い物に出かけたときは、観光地ということもあり、日本語が話せる店員も多く初めて韓国に来た私でも無事に買い物をすることができた。

韓国に出发する直前に、日韓の間で問題が起きてしまって反日が強まっているのか不安なところもあったが、日本人だとわかると優しく教えてくれたり、案内してくれたりした。14日間の研修はとても充実していて、問題なく楽しく過ごすことができた。それは東西大学校の日本語学科の学生たちのおかげだと思う。東西大学校の日本語学科の学生たちも14日間、私たちのサポートをしてくれて韓国の文化を教えてくれた。次は私たちが東西大学校の学生たちをサポートする番なので、精一杯力になれるように努めたい。

最後に、実際に韓国に行ってみて、直接現地の人とコミュニケーションを取ったり、その国の文化を体験したりすることは、本当に貴重な経験であると実感した。実際にやってみなければわからないことを経験したことは、今後の自分の大きな力にできたと思う。



今回の語学研修が初めての海外で初めは不安だったが、現地についてから2週間楽しいことばかりで様々な発見があった。

韓国は日本に比べて物価が安いと聞いていて、食べ物や飲み物、服などは確かに安かった。初日に釜山について感じたことは、とにかく坂が急で多いなと感じた。東西大学校自体、校舎が一つぶんくらいあり、移動するのも疲れる広さだった。

二日目は、東西学生と交流した後南浦洞へ行き、フォトスポットで人気のところでたくさん写真を撮った。その後はおでん作りや買い物をした。韓國のおでんは日本のおでんと同じようなもので、蒲鉾もカラフルでかわいい見た目のものが多かった。



(南浦洞のフォトスポット)

韓国語を学ぶ中で、少し日本語と発音が似ている単語が多くたり、文法が日本と同じだったりと覚えやすいなと感じた。韓国語を学ぶのは今回が初めてだったが、2週間いた中、現地で過ごしながら勉強すると言葉が身につきやすいなと身をもって体験できた。今度はもう少し長い期間で学びに行きたいと思う。

韓国の文化体験で、陶磁器作りをした。日本でも陶器作りをしたことがありどちらも同じようなものだった。



(陶磁器)

2週間韓国料理を食べていて、韓国は基本的にシェアが多く日本にはあまりないスタイルで料理が出てきた。どこで何を食べても必ずキムチは出る。韓国の定食を頼むと小鉢がたくさん出てくる。辛いものが多く、日本と違って料理の種類はあまり多くないと感じた。

実際に韓国に行き、韓国と日本の関係についてどう思っているのか韓国の方に聞いたが、韓国人も日本人と同様、日本が嫌いなだけでなく政治関係を気にする人以外は基本的に日本のことは悪い印象は持っていないと言っていた。

日韓の友好関係がもっと良くなるといいなと今回語学研修に参加して感じた。今回の研修を機に韓国語を勉強する。



海外に出て感じたこと・考えさせられたことを以下に述べる。

日本の有難み…

・日本は韓国と比べて徴兵制度がない。今回韓国の大学生が来年から軍隊に行くと言っていた方や、既に任務を終えた方がいた。直接、胸の内を聞くことが出来た。とても不安だそうだ。もし将来出産するのであれば、日本だと現状では、男の子を出産しても強制的に国に離されることはない。

食事

・和食が一番日本人に合っているなど改めて感じた。韓国では毎日キムチが定番であるが、私にとって毎日食べられるものではなかった。日本でいう梅干しや納豆のようなものかもしれない。そして、腸詰やゲテモノ類が普通の食堂でも出てくる。かろうじて、米は日本のものとあまり変わらないなと思った。箸が長めでさらに金属製なので持ちにくい。食器を持ち上げずに吃べるのは日本と真逆だ。一緒なのは、「いただきます」や「ごちそうさま」と言うところや、ご飯が左、汁物が右という配膳位置だ。そして、韓国人はシェアする文化だ。大皿やセットなどを頼み何人かで分ける。日本人は1人につき1つのものを吃ることも度々ある。また、お通しの量にはびっくりした。日本では有料で少量のお通しが出ることがあるが、韓国では大量であり、料金に含まれている。

韓国の学生…

・東西大学の学生は私たちにたくさん世話をしてくれた。男性は荷物を積極的に運んでくれ、頼りがいがあった。女性はとてもフレンドリーに街を案内してくれた。そして勤勉家で、英語や語学に興味がある方が多い。そのため、日本語を流暢に話す方も珍しくない。韓国では年齢は「数え」で計算するため、日本の大学生と年齢が異なる。また大学受験は、韓国では良い大学に入ると将来が約束されるという考え方だ（最近は良い大学に行っても良い就職先が見つからない事もある）。その為國を挙げての一大イベントで、パトカーや白バイが送ってくれる。その裏にはカンニングが多いため、前日にならないと試験会場が分からないという理由もある。実際に東西大学の学生に聞いたところ、自分で試験会場に行ったという方や、警察に送ってもらったという方もいた。

反日…

・韓国は反日と聞くが、少なくとも14日間の語学研修ではそうは感じなかった（学生・外部の食堂・市民の方など）。恐らく一部の反日派をメディアが大きく取り上げすぎているのではないか、それによって韓国と日本の溝はさらに広がってしまう。

デモ…

・今韓国では週末デモが頻繁に行われているようで、実際にその様子を目撃した。日本のデモを1~2度見たが、日本と違うところはお祭りを感じさせられたという事だ。演説者は大きなスクリーンに映り、おそろいの衣装を着て前に出ている者達もいた。

坂…

・東京都内と違い急こう配な道を毎日登った。学生はバスを使う場合もあるが、体力が自然につきそうだ。そして、高い場所から下を眺めると、とても景色が良かった。寮からは毎日夜景を眺める事が出来た。

気温…

・ソウルより釜山は暖かいようだがそれでも東京と比べると、とても寒かった。朝はマイナスになることもあり、一部の川は氷が張っていた。

買い物…

・韓国の服は日本人にとっても可愛くて安い。買い物目当てで韓国に行く女性も多いと聞いた。だが旅行中に購入すると、普段より多く買ってしまうし、帰りの空港での重量制限や、荷物を運ぶ自分自身も大変苦労する。スーパー やコンビニは袋は有料だ。日本はまだ無料でもらえたり、袋にお金がかかるというより、もらわなかつたら割引やポイントが付くケースの方がなじみ深い。

交通機関…

・東京都内と比較すると、都内ではバスは短い距離しか走らないが、釜山ではいろんなところへバスで行けた。値段は150円くらいだ。また、地下鉄は東京のように便利である。交通カードを使えばコンビニなどでお金をチャージできる。だがバスの中ではチャージはできない。日本もバス内でチャージできないようにすれば、チャージする事で他人を待たせてしまうことがなくなるのではないか。そして下車する際にパネルにカードをかざすと乗り換えの割引もある。東西大学と繁華街を結ぶ67番に頻繁に乗った。所要時間は30分程度だが167番が東西大学行きだからと安易に乗るとかなりの遠回りだった。

気を付けないと困ったこと…

・キムチは手荷物に持ち込めない

・困ったことを伝える時にせめて英語で伝達する語学力が必要だ（ジェスチャーも大事）

・オートロックに閉め出されないよう鍵を肌身離さないようにする



ソウルには何度か訪れたことがあるが、釜山は2度目の訪問となった。ソウルと釜山を比べると、主觀であるが、釜山の方が性格的にあたたかい人が多いと感じた。電車に乗っているときに立っていると、おばさんntonとされ、あそこの席空いているから座りなさい。と言われた。ソウルではなかったことである。

そして、会う人皆優しい。道を歩いて思ったことであるが、道に迷ったときに声に出てへは、どこにあるのだろうと。言ったところ横を歩いていたおばさんがそれを聞いて答えていた。日本ではあまり見ない光景であった。

他にも、韓国には日本と同様交通カードがあり、それにチャージをしようとしていた時に、やりかたが分からず、もたついていたら、後ろのお兄さんがここにお金を入れるんだ。すぐに教えてくれた。韓国の人々は、世話を焼くのが好きな人が多いと思った。

まず、大学に着いて思ったことは、坂が急すぎる。写真を載せたいのだが、何枚とっても写真だと表現することができない。大学は、山を切って建てているため傾斜が急になっていた。初日は皆息切れをしてしまっていて、途中休憩をはさみつつ上っていると東西大学の学生に笑われた。しかしこの坂も2週間もすればなれるもので、最終日には下から上までスタスタ登れるようになっていた。釜山で自転車に乗っている人を見るのはこのようなことがあるからである。2週間滞在して10台も自転車に乗っている人は見られなかつた。皆、交通機関をよく利用しているように見受けられた。交通機関と言えば、バスに乗ったときは、運転の粗さに驚いた。吊革につかまっていてもバスの揺れに耐えられなかつた。バスは、降りるときに交通カードをタッチすると、次のバスへの乗り換えが無料になるのがいいと思った。

初日の交流会の時に私は、韓国語を話すことができなかつたため、コミュニケーションをとれるのか不安だつた。しかし、東西大学の学生は、私が思っていた以上に日本語が上手であり驚いた。

授業は、最初先生がほとんど韓国語で話すため、何を話しているのか分からなかつた。しかし、徐々に耳が韓国語に慣れたのかニュアンスが分かるようになつた。先生も私たちが理解しやすいように、道具などを使用し、工夫して授業を行つていただいた。

たまに、東西大学の学生が隣で一緒に授業をうけたりした。

その学生たちと様々な場所にいったがその中でもキムチを作ったことが印象に残つている。日本でキムチを作ることはほとんどないと思う。購入した方が安く済むというのもあるし、手間がかかると思っていた。韓国では、キムチを1年分一気に作るそうだ。重労働だと思った。

初めてキムチをつけたが、先生が作ってくれた、タレを白菜や大根に塗り込むという作業をした。キムチのタレには、さまざまな材料が使用されていて、知っている物もあったが、エビや梨なども入れていたことには、驚いた。普段キムチを食べていたが、そのような味は感じられなかつたからである。

韓国のごはんは、種類が多く量も多いと感じた。

食事のマナーでは、韓国の方と食事をする際に日本と異なることが多く見受けられた。お皿をもって食べてはいけない。使用した箸を日本人であれば、お皿の上や箸置きに置くのだが、韓国では直に机に置いていた。そして、食事をするスピードが日本人と違うを感じた。静かに速く食べていた。食後も日本人はゆっくり一休みしてからお店を出るが、韓国人は、食事が終わったらすぐにお店を出てカフェに移動したりしていた。

留学中に食べたご飯は、ほとんど辛い物が多かつたが、東西大学の学生に紹介されて行ったお店の料理が群を抜いて辛かつた。ここのお店で初めて言葉の壁にぶつかった。お店の方に日本語が通じずメニューもすべて韓国語であったため、読むのに時間がかかつた。いつもは、チューターの方が通訳をしてくれたため、苦労せずに物事を進めてこられた。結局知っている単語のものを頼んだのだが、出てきたものが大変辛く、おいしさよりも辛さの方が強かつた。日本では、あまり辛い物を食べる習慣がなかつたため、新鮮であった。

最後に、

私は、この語学研修を通して一番印象に残つていることは、東西大学の学生と先生に出会えたことである。日本から来た私たちをあたたかく迎え入れてくれ、お世話をしてくれました。

平日は、東西大学の学生がチューターとなり、観光地や体験などの案内をしてくれた。土日は、自由時間で好きなどろに自由に出来られたが、土地勘のない私たちにとっては、地図やネットを見て探るのが大変であった。そこでチューターの方々が土日まで案内してくれた。とても楽しむことができたし、交流をさらに深めることができた。大正大学に来るのが待ち遠しい。

2週間は、短すぎてできることであればもう少し長く滞在したい。と思えるくらいに2週間はあつという間であつた。この経験は、大変貴重であり、一生忘れない経験となつた。



	内容	回数	
講義料	韓国語授業	18時間	
	K-POPダンス	1回	
食費	朝食、昼食、夕食	24回	
	スペシャルメニュー	5回	
文化体験	キムチづくり	1回	
	陶磁器づくり	1回	
	ピビンバブづくり	1回	
	韓国伝統紙工芸体験	1回	
	韓国伝統衣装体験	1回	
文化探訪	慶州	1日	
	企業訪問	1日	
	釜山市内ツアー	1日	
宿泊費	東西大学生寮	14泊	
合計			



成果は数字で測れない

報告書の中に、学生たちが強く感じ取っている「世界の中の日本」についてこう述べている。

「グローバル化が進み、日本にいながら世界と繋がることが容易になった今だからこそ、外国に行く必要がなくなったのではなく、むしろ実際に行ってみて自らの目で見たことを、自分自身で考えることがとても重要になってくるのではないかと思う。井の中の蛙になってはもったいない。」「日本の歴史からも分かる。島国だから、ということを言い訳に、なかなか世界と触れ合おうと行動してこなかった自分が、結局はすごく日本人らしいと思った。日本のことは好きであり、日本人らしい自分も好きだが、今回の経験を通して、もっと日本を知るべきだと感じ、さらに考えるだけでなく行動し世界に触れたかった。」彼らの言葉すべてを語っているように思われる。外向的になれずに「内向化」になりつつある大学生たちが多い中で、このような気持ちを少しでもファシリテートできたなら、私達、国際教育を担当する者としては、今後の学生に示すべき操舵は自ずと預けられたのではないかと思う。

今後とも、きっかけを作ること、学生自らに気づきと発見を大切にプログラムの推進に邁進したいと考えている。

。

東西大学校語学研修 2017

住所 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

大正大学

教務部教育支援課

国際

電話番号: 03-5394-3039

FAX 番号: 03-3918-9179

電子メール: kokusai@mail.tais.ac.jp

